

題名 いろいろな石を探そう

1．学習のねらい

石は、身近にあるにもかかわらず、あまり意識されていない物です。いろいろな条件の石を探しながら、石の特徴を知り、河原の自然に親しみます。

2．実施について

- (1) 実施時期：1年を通して可能 (2) 実施場所：危険のない、多様な石がある河原
(3) 指導時数：1時間 (4) 指導対象：低学年

3．準備するもの 適切な長さ(10～15m程度)のロープを輪状に結んだもの、救急箱

4．学習の進め方

- (1) 2～4名程度のグループを編成します。
(2) ロープを安全で多様な石のある場所に輪状に広げます。
(3) グループで、ロープの中から5個の石を拾うように指示します。あとのゲームで使うので、なるべくいろいろと違う特徴を持った石を拾うように、説明します。適当に制限時間を設けます。
(4) 各グループが石を拾い終わったら、1カ所に集合させ、ゲームの説明をします。
説明：指導者は合図として次のような特徴を大きな声で発表する。
例)「5個の石の中で一番小さい石」
石の特徴 大 き さ：大きい石、小さい石など
色 ：白い石、黒い石、赤い石など
形 ：平たい石、丸い石、四角い石、三角の石など
光沢・手触り：ツルツルした石、キラキラ光っている石など
指導者の合図で各グループから一人ずつ交代に石を持ってきます。
(5) 各グループの石を見せ合い、みんなで最も条件に合った石を決めます。
(6) 選ばれた石を持ってきたグループに拍手をします。
(7) 1～2回練習をして全員がルールを覚えたら、本番を開始します。

5．指導上の工夫・留意点

- (1) 石の種類を知るのではなく、それぞれの石の持つ特徴の違いに気づくのがねらいです。
(2) 観察場所への移動も含め、事前調査を十分に行うなど、安全管理に万全を期します。ダムの放流にも注意して下さい。また、石を投げるなどの危険をとまなう行為に対する指導を十分に行った上で活動します。
(3) 得点をつけて競ってもよいのですが、勝敗にはこだわらないようにします。
(4) 活動を2時間扱いとし、ゲームのあと、各個人で動物などに形の似た石を探し、見つけた石を教室に持ち帰って、フェルトペン等で色を付けて作品に仕上げることも考えられます。その場合は、作品の発表会や展示会をしてもよいでしょう。



(写真提供：和歌山県教育センター学びの丘)